

【参考】大阪府域における地震被害想定

本市域における地震による被害の想定は次のとおりです。

項 目			大 阪 市 域 へ の 影 響 が 考 え ら れ る 地 震					
			内 陸 活 断 層 に よ る 地 震				海溝型(プレート境界)の地震	
			上 町 断層帯地震	生 駒 断層帯地震	有馬高槻 断層帯地震	中央構造線 断層帯地震	東南海・ 南海地震	南海トラフ 巨大地震
地震規模(マグニチュード) 発生確率 注2)			7.5～7.8 2～3%	7.3～7.7 0～0.1%	7.3～7.7 0～0.03%	7.7～8.1 0.06～14%	7.9～8.6 70%程度	9.0～9.1 —
震 度			5強～7	5弱～6強	5弱～6弱	4～5強	5弱～6弱	5強～6弱
建 物 被 害	全 壊 棟 数		166,800	62,800	4,700	700	8,500	78,900
		木 造	145,700	58,200	4,400	600	8,000	71,100
		非木造	21,100	4,600	300	100	500	7,800
	半 壊 棟 数		109,900	72,300	9,700	1,700	17,700	217,100
		木 造	82,200	59,700	8,400	1,400	15,200	164,900
		非木造	27,700	12,600	1,300	300	2,500	52,200
火 災 注3)	炎上 出火	1 日	325 件	81 件	4 件	0	6 件	— 注5)
		1 時間	162 件	41 件	2 件	0	3 件	— 注5)
		残 火 災	6 件 注4)	0	0	0	0	— 注5)
ラ イ フ ラ イ ン 被 害	電 力	停 電 率 (停電軒数)	約 64% (約 983 千軒)	約 7% (約 105 千軒)	約 1% (約 10 千軒)	約 0.1% (約 1 千軒)	約 2% (約 26 千軒)	約 49% (約 720 千軒)
		復 旧 期 間	約 1 週間	約 6 日	約 2 日	約 1 日	約 1 日	約 1 週間
	ガ ス	ガス供給停止率 (供給停止戸数)	約 81% (1,195 千戸)	約 32% (475 千戸)	0% (0)	0% (0)	0% (0)	約 53% (約 704 千戸)
		復 旧 期 間	約 2～3 ヶ月	約 0.5～1.5 ヶ月	約 0.5～1 ヶ月	約 2 週間	—	約 1 ヶ月注6)
	水 道	水道断水率 (断水人口)	約 77% (2,075 千人)	約 68% (1,906 千人)	約 20% (628 千人)	約 4% (123 千人)	約 13% (386 千人)	約 51%注7) (約 1,400 千人)
		復 旧 期 間	約 1 ヶ月	約 1 ヶ月	約 2 週間	約 1 週間	約 1 週間	約 40 日後
	電 話	固定電話不通率 (不通加入者数)	約 13% (約 525 千回線)	約 2% (約 64 千回線)	約 0.9% (約 35 千回線)	約 0.2% (約 9 千回線)	0% (0)	約 48% (約 533 万回線)
		復 旧 期 間	約 2 週間	約 2 週間	約 2 週間	約 5 日	—	約 1 ヶ月
人 的 被 害	死 者		8,500 人	1,400 人	～100 人	0	～100 人	119,600 人
	負 傷 者		41,000 人	37,800 人	6,100 人	900 人	10,300 人	53,600 人
避 難 所 生 活 者			343,500 人	148,300 人	16,000 人	3,000 人	28,300 人	821,200 人

注1) 上表の数字は、概ね、大阪府自然災害総合防災対策検討委員会(平成17年度、18年度)における考え方に基づくもので、大阪市内における数値を抜粋したものであります。

注2) 発生確率(今後30年以内)は、文部科学省所管の地震調査研究推進本部による平成24年1月1日を算定基準日とした評価であります。(平成24年1月11日現在)

注3) 火災は、冬季夕刻・風速5.3m/sで想定しています。
「炎上出火」は、地震後に出火した火災のうち家人、隣人等による初期消火活動で消火できずに残った火災であり、「残火災」は、炎上出火(1時間)のうち、大規模地震下で自主防災組織が機能しなかった場合を想定し自主防災組織の活動を考慮せず、公設消防のみの消火活動で消火できずに残った火災であります。

注4) 自主防災組織が公設消防と協同して消火活動した場合の想定は0件であります。

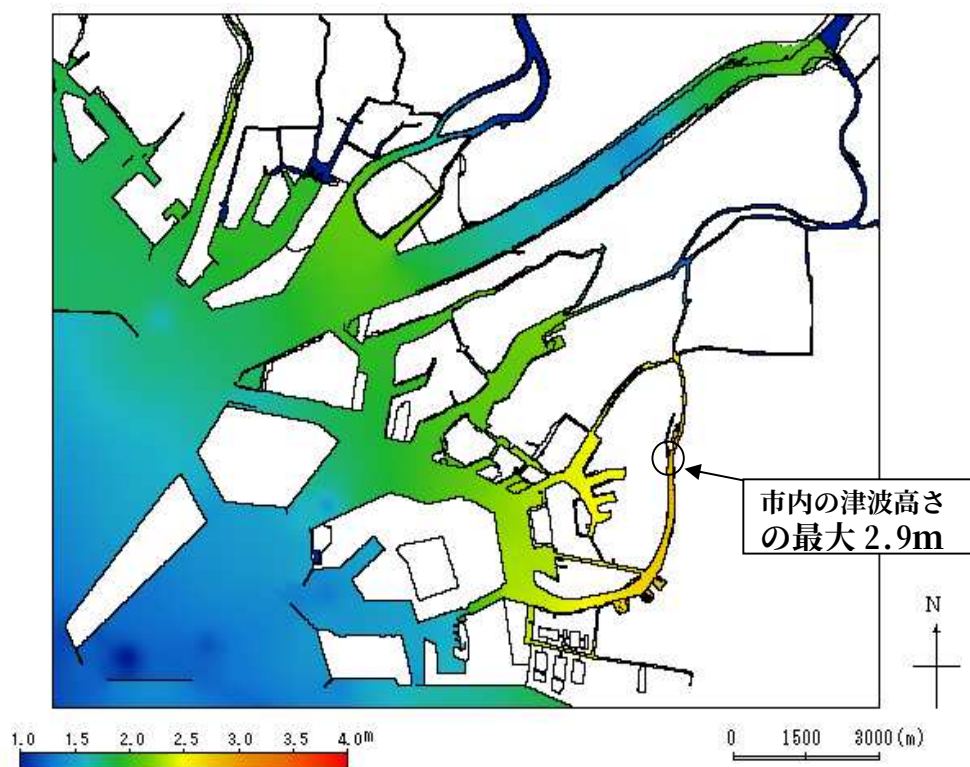
注5) 他の地震との想定条件が異なるため「—」と記載

注6) ガスにおける復旧期間は供給停止戸数より全半壊戸数を除いた個数を対象としています。また、電力及びガスの想定については、それぞれ関西電力及び大阪ガスで実施されたものであります。

注7) 津波遡上による影響を除いています。

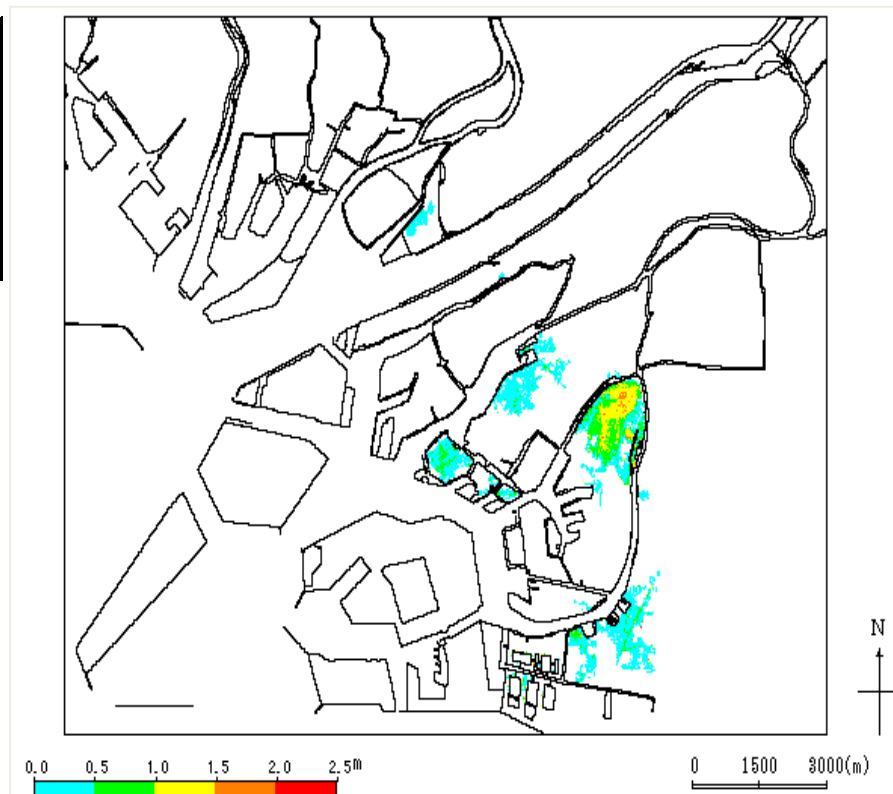
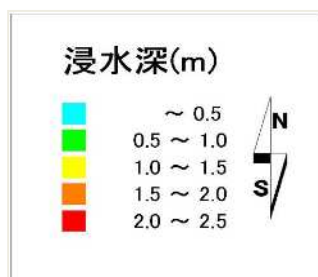
(2) 津波（東南海・南海地震による想定）

大阪市域で予想される津波高さ ※生野区では、被害想定はされていません。



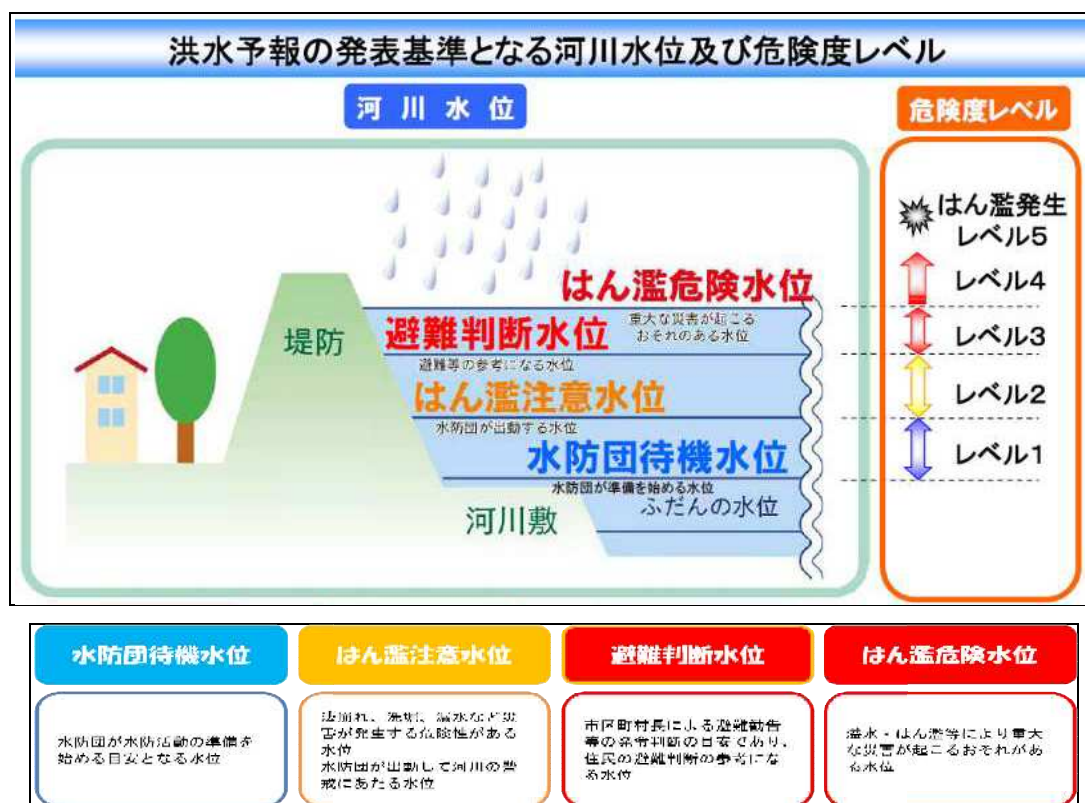
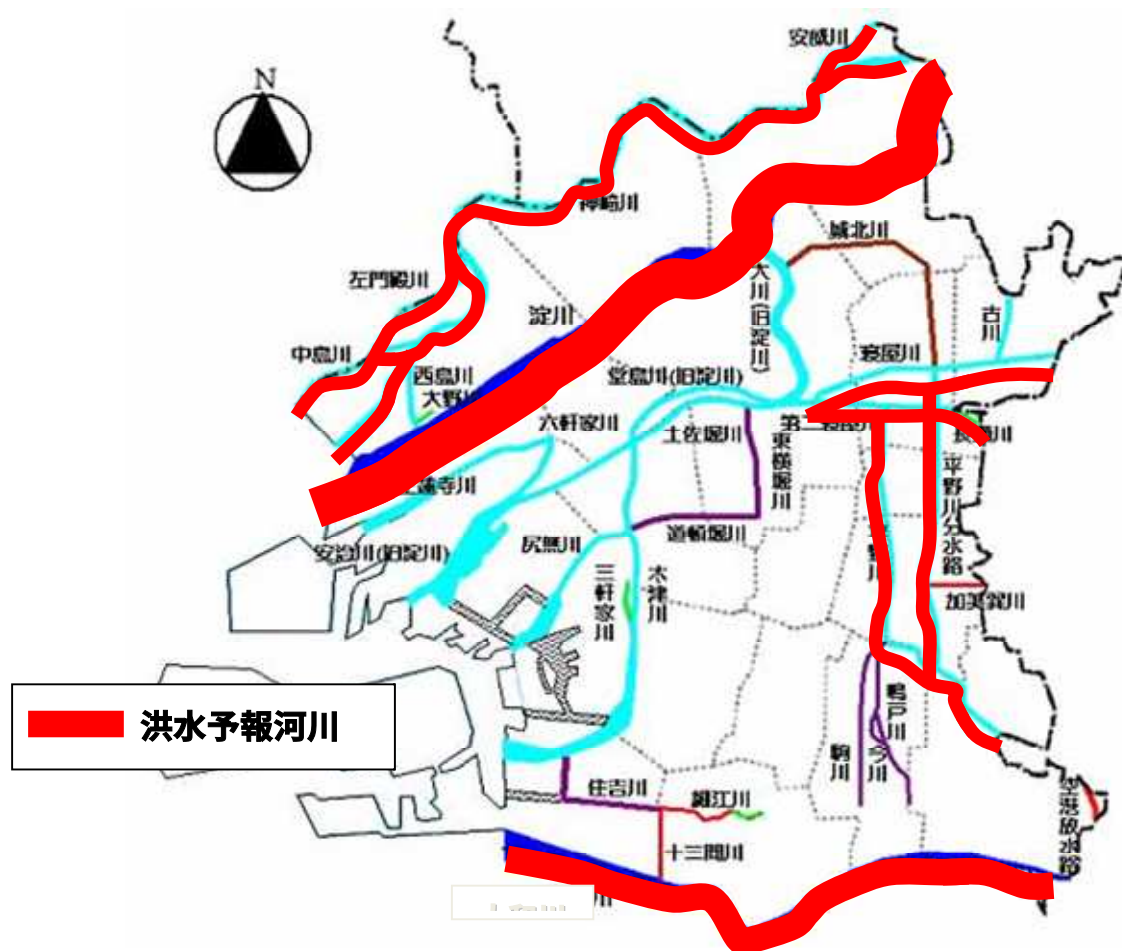
津波浸水想定区域図 ※生野区では、被害想定はされていません。

床下浸水相当 (50cm 未満)	322.7ha
床上浸水相当 (50cm 以上)	160.1ha
合計	482.8ha



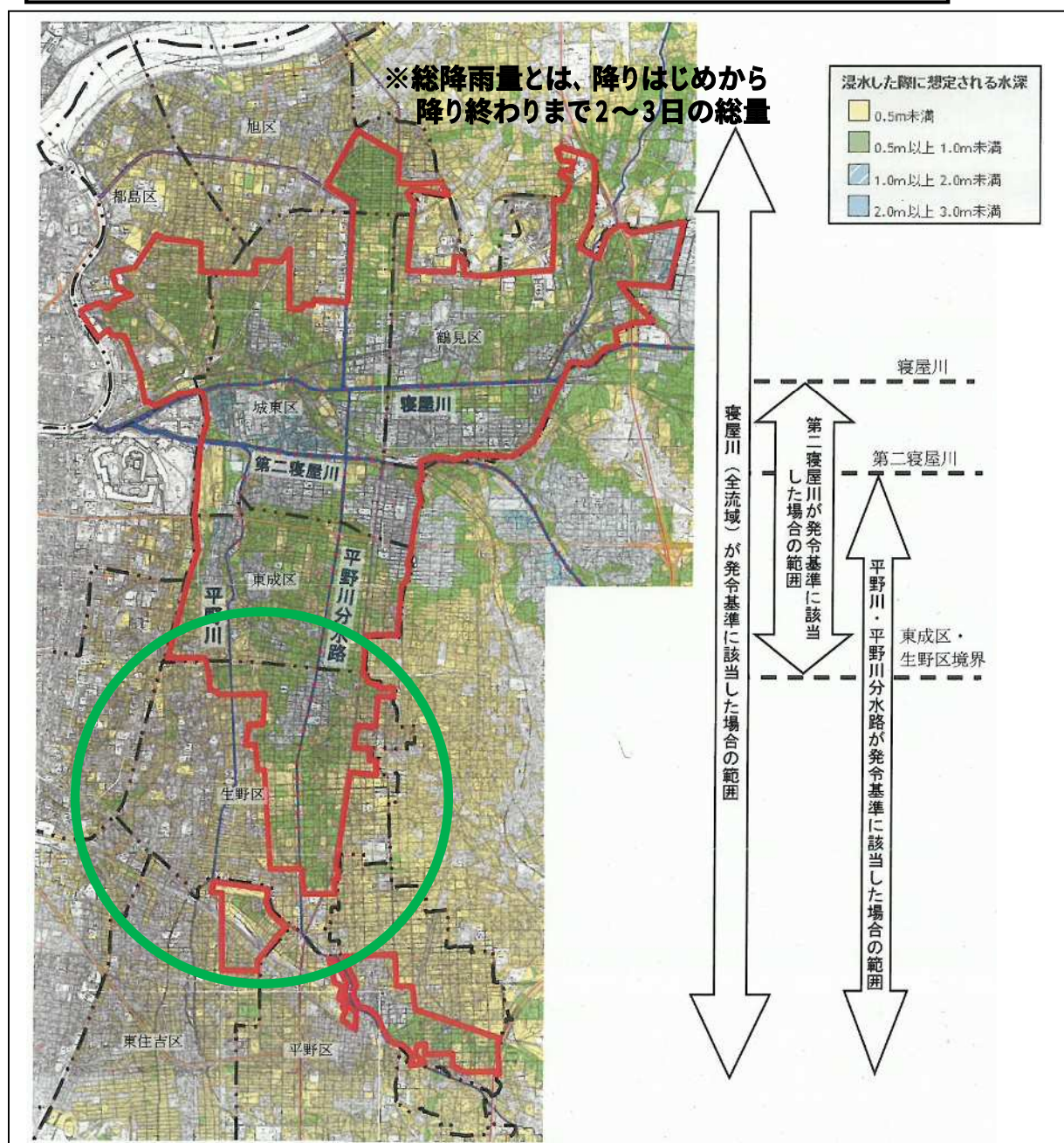
(3) 河川氾濫（大雨で川から水があふれ出た場合の想定）

生野区では、「平野川・平野川分水路」が発令基準に該当した場合に、避難勧告等の対象区域になります。



寝屋川・第二寝屋川・平野川・平野川分水路の避難勧告等の対象区域図

※ 生野区は、平野川・平野川分水路が発令基準に該当した場合に、避難勧告等の対象区域にあたります。



河川氾濫に対する避難勧告基準

【各種水位】

河 川 名 称	寝屋川	第 2 寝屋川	平野川	平野川分水路
観測基準点	京橋	昭明橋	剣橋	今里大橋
ポンプ運転調整水位	3.50	4.85	4.40	4.63
ポンプ運転調整 30 分前水位	—	—	—	3.85
氾濫危険水位 (Lv4)	3.30	4.55	4.15	3.50
避難判断水位 (Lv3)	3.20	4.40	4.00	3.40
大阪市域の 避難判断相当水位	3.10	4.25	3.90	—
氾濫注意水位 (Lv2)	3.00	3.40	3.30	3.30
水防団待機水位 (Lv1)	2.40	2.50	2.80	2.80

※平野川分水路は、氾濫危険水位が避難判断と差が小さいため、ポンプ運転調整水位の 30 分前の水位を基準に採用

【避難勧告基準】

発 令 内 容	発 令 基 準
避難準備情報	○寝屋川、第二寝屋川、平野川 洪水予報における観測基準点の水位が、大阪市域の避難判断相当水位に到達し、さらに上昇する見込みとなったとき ○平野川分水路 洪水予報における観測基準点の水位が、避難判断水位に到達し、さらに上昇する見込みとなったとき
避 難 勧 告	○寝屋川、第二寝屋川、平野川 洪水予報における観測基準点の水位が、氾濫危険水位に到達したとき ○平野川分水路 洪水予報における観測基準点の水位が、ポンプ運転調整水位のおよそ30 分前の水位に到達したとき
避 難 指 示	・ 洪水予報における観測基準点の水位が、ポンプ運転調整水位に到達するおそれが高いとき ・ 堤防が決壊する恐れがあるとき（堤防の決壊につながるような大量の漏水や亀裂等が発見されたとき） または、堤防が決壊したとき

【総括】

河 川 名 称	避 難 準 備 情 報	避 難 勧 告	避 難 指 示
寝屋川	3.10m に到達し、さらに上昇見込	3.30m に到達	3.50m に到達のおそれ
第 2 寝屋川	4.25m に到達し、さらに上昇見込	4.55m に到達	4.85m に到達のおそれ
平野川	3.90m に到達し、さらに上昇見込	4.15m に到達	4.40m に到達のおそれ
平野川分水路	3.40m に到達し、さらに上昇見込	3.85m に到達	4.63m に到達のおそれ

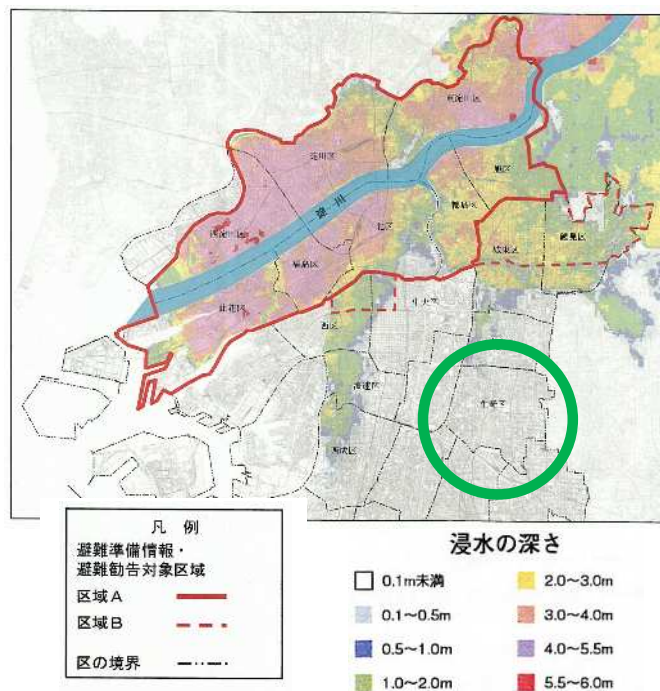
淀川の避難勧告等の対象区域図

淀川が氾濫した場合の洪水の到達時間により、区域を分割して発令します。

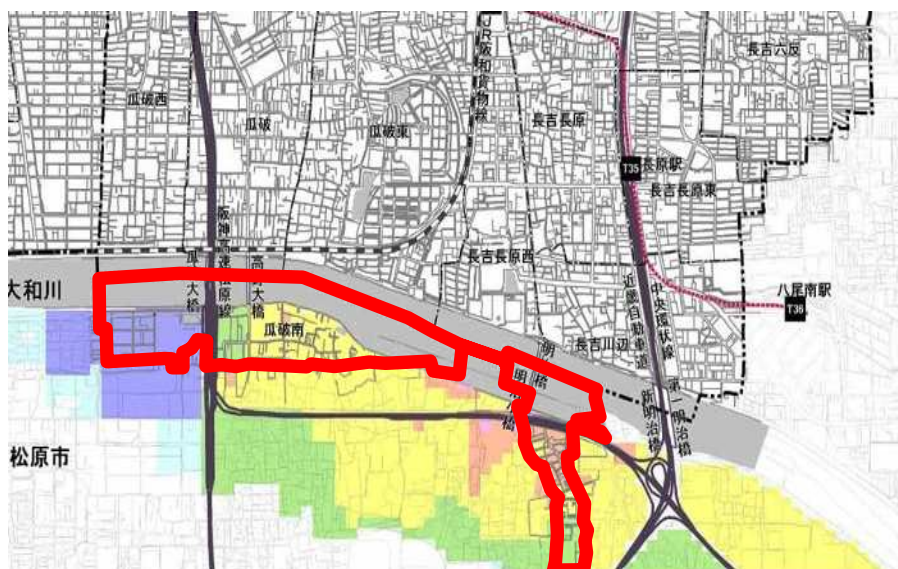
区域 A：淀川が氾濫した場合に1時間で浸水するおそれがある区域を含む行政区

区域 B：淀川が氾濫した場合に1時間～6時間で浸水するおそれがある区域

※生野区は、避難勧告等の対象区域ではありません。



東除川の避難勧告等の対象区域図

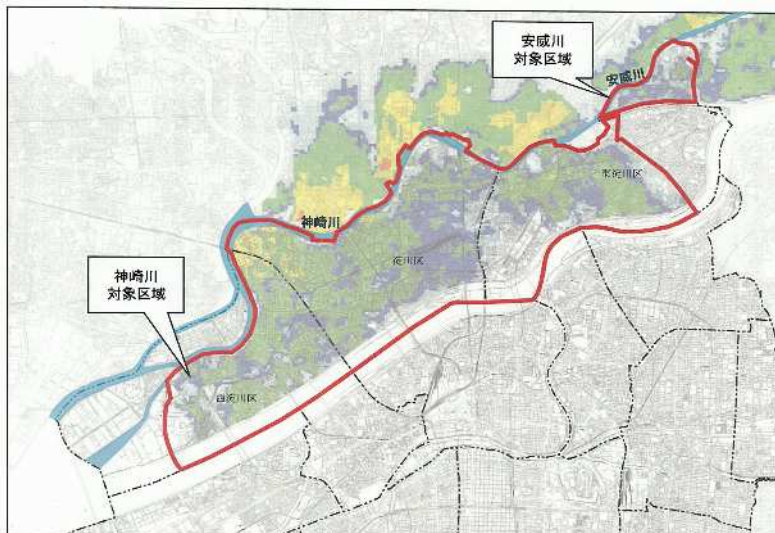


※生野区は、避難勧告等の対象区域ではありません。

神崎川・安威川

の避難勧告等の対象区域図

※生野区は、避難勧告等の対象区域ではありません。



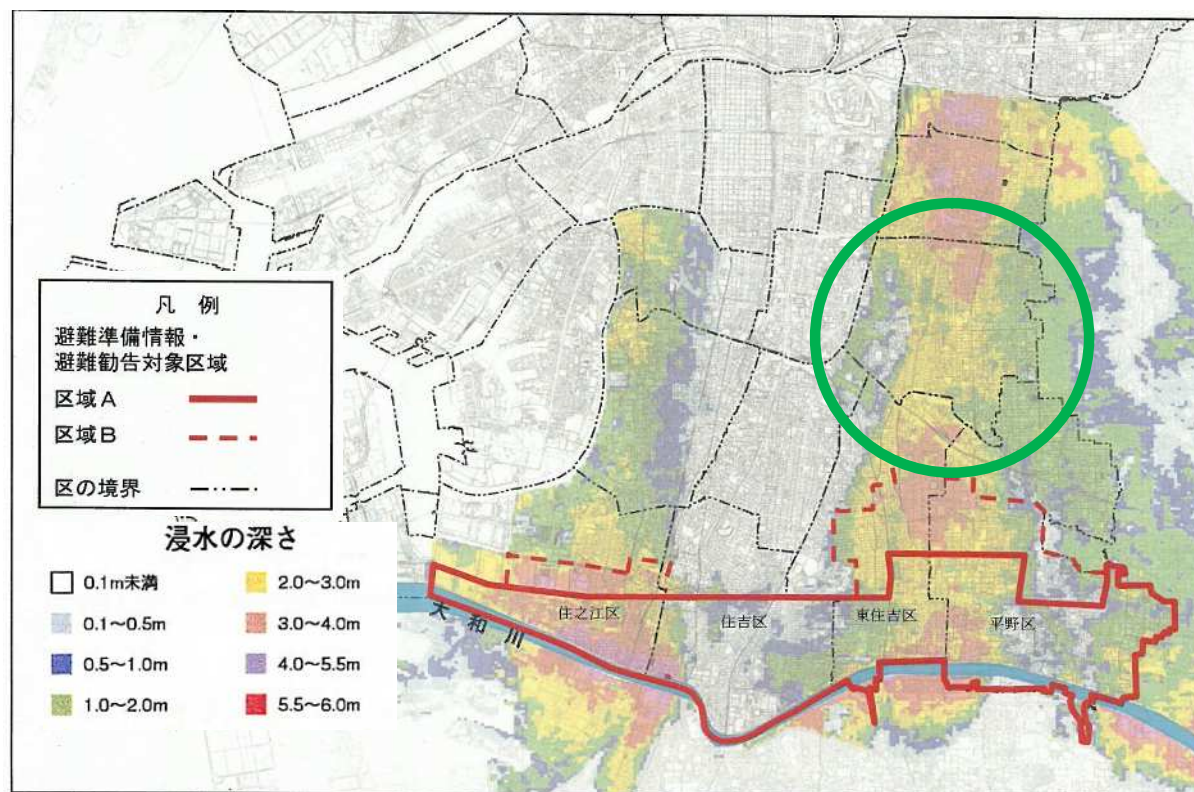
大和川の避難勧告等の対象区域図

大和川が氾濫した場合の洪水の到達時間により、区域を分割して発令します。

区域 A：大和川が氾濫した場合に 1 時間で浸水するおそれがある区域

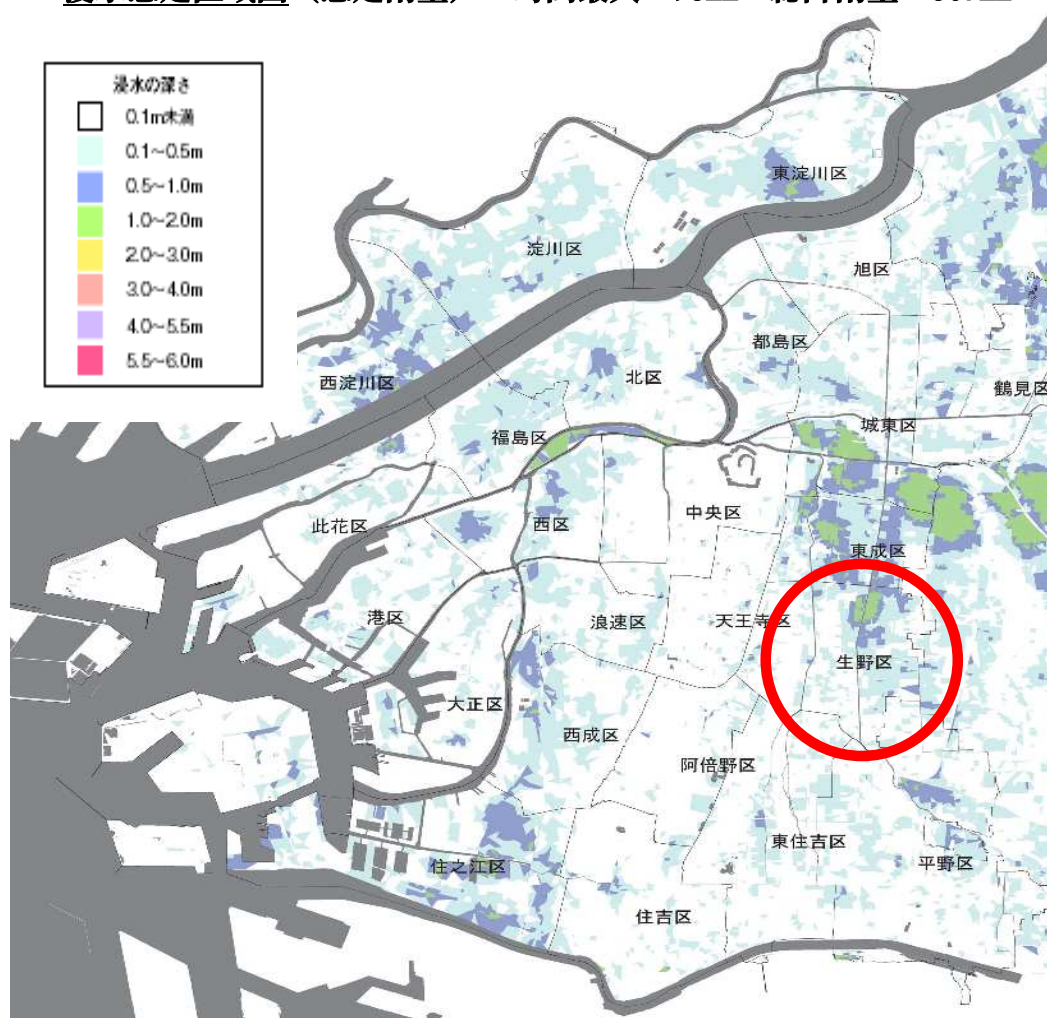
区域 B：大和川が氾濫した場合に 1 時間～3 時間で浸水するおそれがある区域

- 1 避難準備情報の発令基準に該当した場合⇒区域 A に避難準備情報
- 2 避難勧告の発令基準に該当した場合⇒区域 A に避難勧告、区域 B に避難準備情報
- 3 堤防が決壊した場合等⇒区域 A のうち必要な範囲に避難指示、区域 B のうち必要な範囲に避難勧告



(4) 内水氾濫（大雨で下水道から水があふれ出た場合の想定）

浸水想定区域図（想定雨量） 時間最大 93mm 総降雨量 567mm



2 地震が起きたら

(1) 地震だ ～ 自宅にいるとき ～

【まずは、落ち着いて】

地震は突然発生します。何が起きているのか、その瞬間には判断できません。数秒の揺れでも、とても長く感じます。慌てずに現在自分がどこにいるか冷静に考えましょう。

【自分の身体を守る】

転倒しないよう丈夫なものにつかまったり、家具や落下物から身体を隠して保護しましょう。

【火に近づくな】

震度 5 相当以上の揺れを感知すると自動的に都市ガスは供給が遮断されます。もし、家事などで火を使っている時に地震が起これば、無理に火を消そうとせず、揺れがおさまるまでは火元に近づかないようにしましょう。おさまったら速やかにガスの元栓を閉めましょう。

【寝ているとき】

布団や枕で頭を守り、ベッドの下など家具が倒れてこないところに身を伏せます。地震による室内の状況変化に注意しましょう。

【風呂やトイレに入っているとき】

風呂場やトイレは比較的安全な場所といわれています。あわてて飛び出さず、ドアや窓を開けて出口の確保をしましょう。お風呂に入っているときは、揺れがおさまってから火の始末をしましょう。

【集合住宅では】

ドアや窓を開けて非常口を確保し、避難にエレベーターを絶対に使わないようにしましょう。火災のときは、炎や煙に巻き込まれないように低い姿勢で、階段を使って避難しましょう。

【室内のガラスに注意】

家の内外は、割れたガラスが床に散乱することがあります。必ずくつ・スリッパなどを履いてください。絶対に裸足では歩き回らないようにしましょう。

(2) 地震だ ～ 外出中のとき ～

【車の運転をしているとき】

急ブレーキは事故の原因となります。ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、道路の左側に止め、エンジンを切り、パーキングブレーキをかけましょう。車を離れるときは、連絡先の電話番号や名前を書いたメモをフロントガラスの内側に貼り、車検証などの貴重品を忘れずに持出しておきましょう。

【高速道路を走っているとき】

あわてずゆっくり減速し、路肩に寄せて停車し、エンジンを切ってください。非常口は約 1,000 メートルごとに設置されていますので、周囲の状況に注意し避難してください。

【バスに乗っているとき】

前の座席やつり革をしっかりと握るか、しゃがみこんで座席の足にしがみつこうにしましょう。揺れがおさまってもあわてて外に飛び出さず、運転手の指示に従いましょう。

【電車に乗っているとき】

つり革や手すりにしっかりと両手でつかまりましょう。座っているときは、上体を前かがみにして、雑誌やバックなどで頭を保護しましょう。勝手に車外へ出たりしないで、乗務員の指示に従いましょう。地下鉄の場合はレールの横に高圧電流が流れており感電するおそれがあります。

【エレベーターに乗っているとき】

地震時管制装置により最寄りの階に停止するものもありますが、全ての階のボタ

ンを押し、停止した階で外に出ましょう。閉じ込められたときは、もし停電で真っ暗になっても落ち着いて、救出を待ちましょう。

【デパート・スーパーにいるとき】

揺れを感じたら、かばんなどで頭を保護し、ショーウィンドウや商品などから離れましょう。柱や壁ぎわに身を寄せ、店員の指示に従って行動しましょう。あわてて出口に殺到すると危険です。

【学校にいるとき】

先生や校内放送の指示に従いましょう。教室にいるときは机の下にもぐりこみ、机の脚をしっかりと持ちます。本棚や窓から離れ安全な場所に移動しましょう。

【職場にいるとき】

窓際やロッカー、資料棚などから離れて、机の下などに入り身を守りましょう。

【オフィス街にいるとき】

ビルの窓ガラスが割れて落下する場合があります。安全な場所に移動しましょう。

【橋の上にいるとき】

橋や歩道橋の上にいるときは、振り落とされないように手すりや柵にしっかりつかまりましょう。揺れがおさまったら、即座にその場を離れましょう。

【海岸や河川敷にいるとき】

津波に注意し、その場から離れ、高台など安全な場所にすぐに避難しましょう。

3 風水害時に対する備え

(1) 風水害から身を守る

【気象情報に注意する】

テレビやラジオ、電話(177)、インターネットなどを利用して、気象庁から発表される警報・注意報や、区役所・消防署からの情報に注意しましょう。台風が接近しているときや豪雨のときは、外出しないようにしましょう。

【風が強いときは注意する】

《路上にいるとき》

止むを得ず外出する際は、天気予報を確認し、少しでも危険を感じる場所には近づかないようにしましょう。特に強風で瓦や看板が飛んだり、街路樹などが倒れたりします。無理して歩かず近くの頑丈な建物に避難しましょう。

《屋内にいるとき》

風圧や飛来物で窓ガラスがわれ、破片が吹き込む危険があります。風が強いうちは窓に近づかないようにしましょう。